

BRIDGETTE MAYER GALLERY

サーフスピリッツの誕生 HAWAII

# Blue.

SURFSIDE STYLE MAGAZINE

発刊20号  
特別付録  
Blue.  
×  
Pentleman  
2010年カレンダー

[ブルー No.20 | 980yen  
〒100-0001 東京都千代田区千代田2-9-12 1F

| 20号記念特集 | サーフヒーローたちの肖像  
秋冬エキスパート・サーフキャンプ  
CAの新たななるムーブメントALMOND

**永久  
保存版**

# HAWAII

## サーフアイランドの真実と歴史

1967-76失われた10年 / ローカリズムの良心 / 聖域の扉を開いたGUN  
宇宙船ステインガー・スワロー / Style Master ラリー・バトルマン

709 Walnut Street 1st Floor Philadelphia PA 19106 tel 215 413 8893 fax 215 413 2283  
email [bmayer@bridgettemayergallery.com](mailto:bmayer@bridgettemayergallery.com) [www.bridgettemayergallery.com](http://www.bridgettemayergallery.com)

# BRIDGETTE MAYER GALLERY



## Julie Goldstein

ジュリー・ゴールドスタイン

アートの本場ニューヨーク近郊の海辺の町にショップを開き、サーフィンとアートが融合したカルチャーを創り出したジュリー・ゴールドスタイン。しかし、不慮の火災によりそのすべてを失なう。再出発のために移り住んだカリフォルニア。その地で、彼女の人生の新しい歯車がゆっくりとまわり出した。

photo by Takashi Tomita



135

# BRIDGETTE MAYER GALLERY

すべてを失った悲嘆のなかから、  
その先の大切なものが見えてきた。



サーフショップ「ハインサーフ」の裏にあったジュリーのオリジナルブランド「バーフェクト」の作業場。貴重な作品の原画も火事で失ってしまった

今夏カリフォルニアでは、アーティスト・サーファー5人をフィーチャーした「ハッキング・ファイブ」というドキュメンタリー・フィルムが公開され、感度の高いサーファーマたちの間で密かに話題となった。ジュリー・ゴールドスタインはそのなかの紅一点のアーティストだ。

2008年の夏にジュリーを訪ねたとき、彼女はまだニュージャージーの海辺の小さな島で暮らしていた。デザイナーでミュージシャンの夫マークとともにスタジオ付きの自宅でアート制作し、すぐ近くにオープンしたばかりのサーフショップ「ハイン・サーフ」を切り盛りしながら、忙しい夏をくわついていた。ギャラリー・スペースを備えるそのショップは、サーフィンとアートを融合させた、コミュニティの誰もが集える場所

所だった。同時に彼女はクロージング・ブランド「バーフェクト」も手がけ、ジュリーを中心とするサーフとアートなコミュニティの誕生は、東海岸発のサーフカルチャーの新興として注目を集めていた。

ところが、2008年12月30日の夜すべては暗転した。ショップが火事で全焼してしまったのだ。出火の原因は漏電と言われている。ショップ裏にもあったスタジオも全焼し、「バーフェクト」も莫大な被害を受けた。無情にもすべてを失ってしまったジュリーたちは、閉塞と失意のどん底で年を越した……。

そもそもサーフカルチャーのなかでジュリーの名前を聞くようになったのは、日本では原宿で開催された「ハッキング」のショーからではなかったか。しかし彼女のキャリアは最近始まったもので、はない。コネチカット州で生まれニュージャージーで育った彼女は、東海岸を拠点に長く活動してきた3つの大学でイラストレーションと製版、活版印刷、スタジオアートと美術教育を学び、修士号も取得。高校で美術教師として教鞭をとりながら、自らの作品制作し、ギャラリーへも出展してきた。サーフ・フィンを始めたのは13歳。以来ニュージャージーをはじめ、ニューヨーク界隈の道に乗り続ける。海とサーフにも多大な影響を及ぼしている。また彼女は、影響を受けたアーティストに、同じ女性アーティストでサーフ・アートでもあるマーガレット・キルガレンを挙げる。確かにジュリーの作



ニュージャージーの海辺の島に誕生した「ハイン・サーフ」は、築80年以上の家屋を改装してジュリーのセンスを詰め込んだ店。この土地になかったサーフ&アート・カルチャーの発祥地だった

# BRIDGETTE MAYER GALLERY



彼女の創作の基本は木版画。スピード感や動きを強調するためにレースを使用した作品も。レースと木、女性っぽさと男っけのコントラストを意識しているという、「バイク」シリーズは中央を飾ったときの経験から生まれた。サーフィンにしろバイクにしろ、ジュリーが描くのは圧倒的に女性が多い。また雑誌に書かれたアーティストブックは、販売にも携帯でき、自分の作品を売先で売場に足せられるというメリットもある



With a heart of gold  
 カルチャーを愛うガールズサーフアーティスト  
**Julie Goldstein**



長時間スタジオで制作に没頭することも。「初めて木彫って以来、やめられなくなったわ。絵を描き、それを写し、木を彫り、インクをのせ、プリントする。完成まで手間がかかり、どのよう仕上がるかわからないけど、なんともいえない満足感があるの。その感覚が大好き。そして、すべてが逆に見えるのも面白い」とジュリー

# BRIDGETTE MAYER GALLERY

品には、マーカレットを想起させる世界観が漂っている。

「マーカレットと自分に共通している部分を強く感じた。誰かから影響を受けることはアーティストとして大切なことだけれど、自分の作品に忠実であることが、重要なことだと思える。だから私は、木版画という自分の表現方法で、経験に基づいたものや自分が経験したものを作品の題材にしているの。ニュージャージーの海辺には女性サーファーが少なく、みんながそれぞれ孤独にサーフィンしているのが現実だったから、私はガールズ・サーファーみんなで海に行くことに憧れていた。昔風のナンバーのついたウェアを着ている女の子サーファーを描いたチーム・ライダーズ・シリーズは、その憧れを作品に投影したもの。想像上のチームだけれど、間違いないガールズ・サーファー仲間の変態なよ」

こうした独自のアイデアを木版画という独特の質感の作品に落とし込み、自らのショップ兼ギャラリーでディスプレイしてきたジュリア。その大切な表現の場を、一晩で火事に奪われた悲しみは計り知れない。しかしそれが、転機となった。

「クライアントのひとり、カリフォルニアのカーディフにコテージを持っていて、そこで休養を満喫してくれた。私たちは大陸を横断し、カリフォルニアに来て10日間サーフィンばかりをして過ごした」

カリフォルニア滞在中に夫マークはロキシーのデザイナーとしての仕事が決まり、住む家も見つけること



上、カリフォルニアに移り住んでから、カレージの片腕もスタジオ代わりに創作活動を再開。も、カリフォルニアの気候と、毎日海に入るライフスタイルから、新しい発想のシリーズも生まれ、色彩もは鮮やかも明るくなった。



ロキシーからはウエットスーツ制作のオファーがきた。それも彼女の再出発を促す。彼女の得意のナンバーを大膽に木版プリントした



# BRIDGETTE MAYER GALLERY



右、夫のマークとの出会いは8年前、ニュージャージーの島でサーフィンをしているところだった。長くミュージシャンとして活動し、いまではデザイナーとして仕事をしている。愛犬のディビーも大切な家族だ。中、サンディエゴで買った家は、カーティブまで歩いて数分の好立地。ライフスタイルが一気に変わった。左、髪を飾るお気に入りのメタマンのフォトアート

ができた。ジュリーたちは過去を断ち切って、サンディエゴで新しい第一歩を踏み出す決意をする。

「私は東海岸をずっと降りてきて、生きてきた。でも西海岸は波が常にあつて気候が良いから、みんながフレンドリーで、東とはパイプが全然違う。いまここではショップやブランドの運営といったビジネスではなく、アーティストとして何をしたいのか、何を創造していくのかを見つめ直す貴重な時間を持っている。そして、気候とパイプのせいかな、作風も大きく変わってきたの。」

多くを抱え過ぎていた「ニュージャージー」での多忙な生活から開放された、サンディエゴではアートだけに集中し、カーティブ、スワミーズ、週末にはトレントルズの波を楽しむ。「以前と比べてロングボードに乗ることが増えた。いまの私が乗りたいのは、僕しくてソフトな波……」

サンディエゴに来てから手が付け始めた新しいシリーズの「ズウィム・ウィズ・ミー」は、ジュリーが海のなかにいる時間が増えたことの現れだ。透明感のあるカラフルな色が織りなす作風は、彼女のいまの心模様を映しているかのよう。そしてなにより、カリフォルニアではたくさんのガールズ・サーファーたちと一緒に波をシェアできる喜びを実感している。

「今後、ホームレスの子供たちのための学校で、アートのプログラムを作つて版屋を敷きたい」

それは、明るく再スタートを切らせてくれたサンディエゴへの、ジュリー一りの感謝なのかもしれない。

## PROFILE

### Julie Goldstein

1975年、コネチカット州生まれ、ニュージャージー州育ち。アリゾナやコロンビアの大学に通い、卒業後は再び地元に戻る。ニューヨークに住んでいたことも。2008年5月に「バイン・サーフ」をオープン。年末に火事でショップを失いカリフォルニアに移住。今年9月にはフランスのポルターで、また10月にはラグーナビーチのサーフギャラリーで個展を開催し、成功を収めた。



カリフォルニアでの新たな創作活動は、いろんな意味でニュージャージーのそれとは異なっていた。日射しが強く、空気が乾燥しているため、インクの乾きも早い。明るい光が照り出すさまざまな色に刺激され、ジュリーの作品そのものが、以前と比べて見違えるほど明るくなった。「海のなかから水を通して見る太陽の色、反射して見える色を再現している。海のエネルギーの強さを感じるわ」